

1 自治体名	2 部署名	
洲本市	企画情報部 企画課	
1 行政課題の分野	2 支援施策の分類	3 対象とする世代
地域資源	その他の支援施策	高校生(15～18歳)
4 事業者の協力を求める内容	5 困りごとの解決・解消に向けた対応期間	
解決に向けた既存枠組への協力	来年度中(R9年度)に対応したい	
6 解決・解消に要する費用に対する考え方		7 補足資料の有無
費用回収の仕組み、収益化で対応		なし

1 「困りごと」と事業者に期待する内容(要約)

今も生徒が通う高校の「空き教室」を有効活用してほしい

2 現状の行政課題

○ A高校は、機械・電気・商業に関わる人材を育成し、卒業生の約6割が就職することから、地域の産業界にとって大変重要な学校である。
○ しかし、人口減少等により定員数・生徒数が年々減少するとともに、使われない「空き教室」が散見されるようになった。

3 行政課題に対する施策(事業)展開による対応状況と困っていること(課題)

○ 「空き教室の有効活用」を旗印としながら、A高校が有する様々な資源やかかわりシロ(熱量ある教員、次代を担う生徒、探究の授業、加工機械・学食・体育館など様々な学校設備、応援する企業・行政・大学)をうまく活用して、学校や地域をおもしろくしてくれるパートナーを探している。
○ 2025年度にはじまって以降、産学官民連携によるプロジェクトがいくつか生まれ育っており、生徒の育成や、学校や企業のPR等につながっている。

4 企業・団体に「困りごと」解決に向けて連携や協力を求める内容

○ 未成年の生徒が通う学校を舞台としており、プロジェクトとして細部を詰めていく中で様々な制約が発生することも予想されるが、「空き教室を活用できる」「生徒と一緒に何かできる」ということにワクワクしたり、おもしろがってくれる企業と連携したい。
○ 学校と洲本市は(熱量はあるが)予算もマンパワーも不足していることを前提としたうえで、企業には自由な発想でチャレンジしてほしい。
○ 具体的に何をしてほしいという提示はしない(自由な発想を重視している)が、一点だけ挙げると、地元リサイクル業者が無償提供する鉄材と学校の加工技術・加工機械を組み合わせたプロダクト開発にチャレンジしたいと考えている。